

和顔愛語



佐藤 昭二

台風の日

過日連れ合いと些細な事で口論となった。取るに足らない事では有るが、白熱して双方とも引かない。最も近い関係の夫婦だから、なおさら引っこみが見つからない。

この状況に私は「この「台風」は簡単には消えそうもないぞ、どうやって収束させよう」と思案していた。その時、私の頭にふと閃きが有った。

「台風の日の中に入ったらどうだろう?…」

私は、台風に逆らわないでいって見ようと思った。右へ左へと。一緒に台風の動きに合わせて見たら、意外と心地が良いことがわかった。そして驚いたことに、そのうち台風そのものが何にも無かった様に消えて居るのだ。つまり、台風に逆らって居る自分がいたのだ。

今回の口論でこの世の中は案外この原理で動いているのかもしれないと私は考えさせられた。

家庭は社会の最小単位である、この家庭が治まらないで社会生活をうまく運ぶのは難しい。社会生活で問題を起こしている方はほぼ家庭に問題が有るとみて間違いが無い様だ。

では家庭に問題を抱えているのは何が原因なのか? それは生立ちに有る。しかしほとんどの人は自分の生い立ちによって出来る自分の精神構造は分らない。そこに夫婦の価値と役目が有る。夫婦は相手が有って成り立っている、その相手こそが自分を育てる師匠である。日本には昔から師弟関係と云うのが有る、もしかすると夫婦間もそうかもしれない。

常にお互いが師匠であり、弟子である。

師匠の役目は弟子を壊すことが役目の様に思う。お互いの自分のこれまでの観念が壊れた時、真に自分が求めているものがひとりで入って来る。この時の喜びは何物にも替えがたい。夫婦とは正に先祖が選んだ相手であり、自分を育ててくれる最高の師匠である。

この世に生まれおちて、今日までの構築された精神構造(感覚)は普段の生活で変える事は不可能に近い。通常これを変える事が出来るのは、大病をした時や、会社等の倒産等で社会的に気付かされた時であろう。

しかし、そのような大事に遭遇しなくても、自分自身の精神構造を変えることができる。身近に居る夫婦である相手を師匠と思って日常を過ごすことである。これによって自分の真の姿を発見する事ができればそれがまさに最も理想と思われる。

したがって夫婦間に不協和音が流れ出した時、また些細な事で傷つけ合う時、この時こそ私が育つ最高のチャンスである。台風の動きに逆らうのではなく、台風の日の中に入ってみる事も大きな意味が有ると思う。

我が家の台風は穏やかな温帯性気候となり、口論があったことがうそのように感じられる様になった。